ささえる力 Power

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

対話

地域と機構をつなぐ架け橋に

水資源機構では、土木、電気、機械、総務、経理など様々な分野の職員が働いているが、今回取材した今（こん）さんが担当しているのは、調整課という、あまり馴染みがない部署。

一体、何を調整しているのか？そんな謎に包まれた調整課の仕事内容の一端を解明すべく、仕事に同行した。

武蔵水路は埼玉県北部に位置する、利根川と荒川を結ぶ約 14.5km の水路。東京オリンピックを控え、深刻な水不足に対応するために造られた水路で、東京、埼玉南部への安定的な水供給に貢献してきた。しかし、昭和 42 年の工事完了後から約 45 年が経過し、施設の老朽化による通水能力の低下が見られるようになったため、平成 22 年度から水路全線の改築工事を開始し、平成 27 年度の工事完了予定で現在工事を進めている。

Profile

武蔵水路改築建設所　調整課

今　英樹 *Hideki Kon*

平成5年水資源開発公団(現水資源機構)入社。味噌川ダム、池田総合管理所、荒川ダム総合事業所などで、ダムの建設や管理等の幅広い業務を経験。その後、国土交通省荒川上流河川事務所に出向し、流水調整、調査・計画担当として2年間勤務。平成22年4月より現職。

地域と機構の橋渡し役

武蔵水路改築事業を進めるにあたって欠かせない仕事が、今さんが従事している調整課だ。

「武蔵水路の水を使用するのは、東京や埼玉南部の地域であり、武蔵水路がある行田、鴻巣市域には受益がありません。そのために当地域では、迷惑施設、邪魔な施設という思いを持たれている方が多くおられます。事業を円滑に進めていくためには、地域の声に耳を傾けつつ、地域住民との合意形成を行っていく必要があります。調整課の仕事は、地元のニーズを把握し、造る側(＝機構)と地域住民との温度差をできる限り埋めて、事業をスムーズに進めていくための基盤作りです」

調整課が相手にするのは、住民だけにとどまらない。

「地元自治体など関係機関との連絡調整、周辺の道路や橋梁などの施設管理者(埼玉県、行田市、鴻巣市)との調整なども欠かせない仕事です。特に、施設管理者、地元、機構の思いは必ずしも一致するとは限らないため、利害調整には苦労しています。また、機構内部においても、各担当者に地域のニーズを理解してもらうことが大変です。

工事工期が決められた中での仕事なので、スピードが命です。我々の調整が遅れたために、改築後も地域から迷惑施設と思われないよう、住民などからの意見は速やかに関係課へ情報共有すること、日々のコミュニケーションを通じて地域のニーズを各担当者へ伝えることを大切にしていますね」

まさに地域と機構をつなぐ橋渡し役である。

地域住民の不信感を払拭

武蔵水路改築建設所は地域住民が何を望んでいるのかを把握するために、平成 22 年から住民参加会議を開催した。これは機構初の取り組みである。沿線の 40 の自治会を 5 つのブロックに分けて、開催した会議は地元行政にも参加協力いただき、これまでに約 40 回。地域住民から寄せられた意見や要望は 200 件を超えるという。

「武蔵水路が完成してから 40 数年間、地域の声を聞き入れる体制が整っていなかった。住民参加会議は、40 年間溜まった住民の機構に対する不信感を払拭するとともに、地元ニーズを把握し、改築事業をより深く理解してもらうきっかけとなった」と今さんはその当時を振り返る。

取材当日に伺った地区会長さんも「迷惑施設から有意義な施設へ、住民と機構が協力して造りあげていくことが大切。行田は利根大堰もあり、自然豊かで住みやすい場所なので、もっと魅力的な町になれば」と笑顔で話してくれた。

愛着を持てる武蔵水路へ

県道への右折レーンの設置など、住民から寄せられた意見や要望の一つひとつに対して、現地状況、対応方針を1枚にまとめて「整備シート」を作成している。

そして、この整備シートを「武蔵水路周辺整備計画」としてホームページ等でも公表している。

この取り組みにより、「地元の意見や要望を一つひとつ紙にして説明することで、地元に安心感を持ってもらえた」

水路沿いの管理用通路の整備にあたっては、改築事業によって生まれた水路沿いのスペースを管理用通路として整備し一般の人も通行できるようにするとともに、付帯するフェンスの色や高さも地域住民との話し合いを経て決めている。

「地域の要望を受けとめていくことで、住民の皆さんに親しみや愛着を持っていただき、いつまでも愛される武蔵水路に生まれ変わると思います」と今さんは誇らしげに言う。

仕事は楽しく！

そんな今さんに、調整課の仕事で一番心に残っていることは?と聞いてみた。

「平成 22 年の初めての地元参加会議の場で、改築事業なんてやめてしまえ、武蔵水路は、百害あって一利なしという声があがり、出席した住民から拍手が起こりました。そのときに、地元にとって武蔵水路は迷惑施設と思われていることを痛感しました。しかし、その後、年数回の会議や現地見学会などで住民と直接対話を重ねることで、我々、造る側の思いが徐々に住民に伝わるようになり、機構に任せておけば大丈夫、改築することで地域も武蔵水路も良くなるなどの言葉もいただけるようになったときは、この仕事をやってて良かったと思いましたね」

続けて、今後の課題は、「今回の取り組みにより構築した住民との信頼関係を一過性なものにせず、改築事業完了後も地域と交流を続け、地元の声に耳を傾け続けること」だという。

最後に、今さんに仕事をするうえで大切にしていることを聞いてみた。

「仕事は楽しく！がモットーです。調整課の仕事はさまざまな立場の人を相手にするためデリケートで大変なことが多いですが、だからこそ、みんなで楽しく仕事をするように心がけています」

何事にもポジティブな今さん、その姿が春の澄み切った青空の下、ひときわ輝いていた。

プライベートで気の知れた職員と家族ぐるみで旅行や遊びに出かけることも多いという今さん。「仲間とのつながりが、職場で気軽に相談できる雰囲気作りにつながっていると思いますね」